

絵本 Vol.1

いいね!

今回の「いいね!な絵本」は

『オレときいろ』

ミロコマチコ・著
WAVE出版



『オレときいろ』のいいね!な魅力は、圧倒的なパワーで表現された「きいろ」な世界。今回は、『オレときいろ』の作者ミロコマチコさんに作品へのこだわりを語っていただきました。ミロコ先生の絵本デビュー作を手がけ、本作の編集者でもある筒井大介さんのコメント、装丁デザインを担当した大島依提亜さん、印刷を担当した佐野正幸さんのインタビュー等、絵本をつくる人たちのこだわりいっぱいのコラムです。

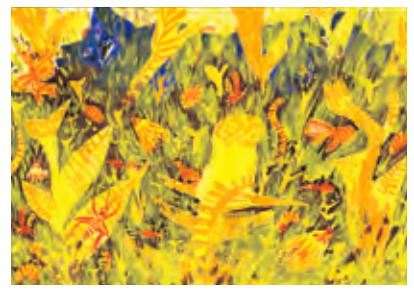


ミロコマチコさん

『きいろ』で表現された世界が描きたかった

作品づくりを通して表現しようとしているテーマは何ですか？

全てに一貫してるテーマは無いんですよ。でも絵本を作り続けたいというテーマはあります。わたしにとっけて絵本って可能性がありすぎて難しいんです。たくさん大好きな絵本があるけど、全部バラバラでこんなに絵本でいろんなことが表現できるんや、と思っています。だからずっと挑戦し続けたいんです。作るものはその時その時に自分が気にしていることを表現したいと思っています。例えば、庭に種を植えたらすごい勢いで芽が生えてきてワアって花になって、すぐ枯れて種が出来たとか、日々のそういう小っちゃなことですね。そういうことに気づいた時に、まず絵を描くことか



『オレときいろ』で、世界最大規模の絵本原画コンクールであるブラティスラヴァ世界絵本原画ビエンナーレ「金のりんご賞」を受賞したミロコマチコさんに、絵本に対する想いや、『オレときいろ』を描いたきっかけを聞かせていただきました。

「きいろ」へのこだわりを教えてください。

ボンボン出てくるものを全部眩しい光にしたかったんです。でも本だからバアってライトみたいに光るわけじゃないじゃないですか、それをどうにか眩しくしたい、と思っていました。描くときは印刷のことまで考えてないです。色んな黄色を使いかけたから色々買ってきて、もう絵の具もまぜこぜぐちゃぐちゃで、こういう明るい蛍光から山吹色とか、ちよっとオレンジ入れてっていうのを、印刷

3月くらいかな。ペランダに猫が毎朝出るんですけど、冬が終わって春が来ようとしてくるよって、世界が色々変わってきますよね。どんどん植物が芽吹いてきたり、春一番がビュッって吹いたり、小さな虫が飛んできたり。それに猫が翻弄されていたんですよ。虫が飛んできたら追いかけてたり、風がビュッって吹いたらワァってびっくりしたり。すごいなあと思って。生き物が活動を始めた植物が芽吹いたり、地球自体がぶわあって騒ぎだしてる気がして、それがすごいエネルギーで、眩しくて光みたいに感じたんです。

『オレときいろ』を描こうと思ったきっかけや表現したかったことを教えてください。

猫から発想を得たけど、猫が表現したかったわけではなくて、光のような「きいろ」で表現された世界が描きたかった。



いいね!な絵本を描いた人

ミロコマチコさん



絵本作家。
デビュー作品『オカミがとぶ』で第18回日本絵本賞大賞を受賞。2015年には『オレときいろ』が、スロヴァキア共和国のブラティスラヴァ世界絵本原画ビエンナーレで「金のりんご賞」を受賞。

ミロコマチコさん、ありがとうございます。

会社さんの大変さに気付かず、ワァって描いてしまったんです。描いていると、もって光って、もって光って。って思ってたんですけど、デザイナーの大島依提亜さんに見せたときにも、「これは黄色が大事だ」「普通の黄色じゃ出せない」って言ってくれました。この眩しい感じを表現するために、みんな「頑張らないとね」と言ってたんだけど、「無理じゃない?」って誰か言わなかったです。

初校から結構良くて、むしろ依提亜さんが「もっといける」と考えていたと思います。さらに再校は、私、外で見たんですよ。見たときはすごかったです。「眩しいっ!直視できない!」って(笑)。すごく感動して「全然すごいじゃない、いいねえ」って編集者の筒井大介さんと言って。ちなみに、これを読んだら興奮して暴れる子どももいるそうですよ。





ミロコマチコやっぱりすごすぎ

筒井大介さん



『オレときいろ』の一番の魅力は「命そのものが目の前で蠢いている」と感じるほどの眩しい絵です。

ミロコさんは目に見えない「命」というものを眩しい黄色と半抽象化された生きもの達で表現したのです。単に動物を動物として描くだけではないその表現は、作家のさらなる可能性を指し示すものにも感じられ「ミロコマチコやっぱりすごえ」という思いを新たにしたのでした。

いいね! な絵本

を編集した人

筒井大介さん



絵本編集者。
担当作に『オオカミがとぶひ』『オレときいろ』(ミロコマチコ)、『えとえとがっせん』(石黒亜矢子)など多数。

印刷が上がってきた時に驚いた

大島依提亜さん



地面からモグラ達が一齐にせり出す場面があって、最初の印刷が上がってきた時に

これはマグマの噴火なんだと初めて気づいてとても驚いた。あれだけつぶさに見ていたはずの原画では気づかなかったところが印刷でふと立ち上がる。ミロコさんの意図を佐野さんは静かにしかし情念を持って再現する。

いいね! な絵本

をデザインした人

大島依提亜さん



グラフィックデザイナー。映画、展覧会のグラフィックを中心に、ファッションカタログ、ブックデザインなどを数多く手がける。

すぐにコレっていう色が閃いた

佐野正幸さん



『オレときいろ』でこだわったところを教えてください。
絵本の原画を見たときに、すぐにコレっていう色が閃いたんです。サターインイエロー(青みがかった冷たい黄色)ですね、本当にこの色です。『オレときいろ』では、いかに原画と同じ黄色を再現するかが大切でした。ですので、普通のプロセスイエロー

印刷現場との橋渡しです。例えば、特殊なインクを使う場合、印刷現場では通常の作業より手間がかかります。基本的には規格に合ったものが印刷会社としては一番扱いやすいんです。しかし、どうしても通常のやり方では表現しきれない「ここが出なきゃダメだよな」という場合があります。印刷現場にとって難易度の高い設計を行うこともありますが、そこを見極めて早めに情報を流すようにしています。

印刷現場との橋渡しです。例えば、特殊なインクを使う場合、印刷現場では通常の作業より手間がかかります。基本的には規格に合ったものが印刷会社としては一番扱いやすいんです。しかし、どうしても通常のやり方では表現しきれない「ここが出なきゃダメだよな」という場合があります。印刷現場にとって難易度の高い設計を行うこともありますが、そこを見極めて早めに情報を流すようにしています。

プリンティングディレクターとはどのような職務ですか?
大雑把に言うくと、絵本を印刷・製造するにあたって、絵本作家の絵画へのこだわり、デザイナーの装丁へのこだわり等を実現するために、最適な選択を提案する仕事です。紙の材質等においても再現が難しい場合は提案をします。

いいね! な絵本

を印刷した人

佐野正幸さん

【プロフィール】
図書印刷株式会社所属
プリンティングディレクター。
絵本や画集、写真集などを中心に、多数の印刷物における色調の再現を手がける。



佐野さん、ありがとうございます。

ミロコさんの作品に最初に携わったのはデビュー作の『オオカミがとぶひ』でした。絵に特徴があつて、味わいがある作家さんだと感じました。このときの編集が筒井さんで、ミロコさんとタッグなんですね。これをきっかけに色々なお仕事に関わらせて頂くようになりました。『オレときいろ』では装丁デザインの大島さんが間に入って、今回「蛍光ピンクを使いたい」というのが大島さんのリクエストでした。

ミロコマチコさんの作品と佐野さんが関わることになった経緯を教えてください。
さらには蛍光ピンクも加えて5色で印刷しています。

さらには蛍光ピンクも加えて5色で印刷しています。一切使用しませんでした。代わりにこのサターインイエローを使い、



『オレときいろ』のお求めは
お近くの書店等
お問い合わせください。



絵本っていいね!

